

豊かな人生を生きる (主な人権課題:高齢者)

日本の総人口に占める 65 歳以上人口の割合(高齢化率)は、2030 年には 30%を超えると予測されています。人生 100 年時代といわれるこれからの社会では、高齢者の尊厳が大切にされ、すべての人が元気に活躍し安心して暮らせる共生社会をつくるのが大切です。

○ 高齢者をとりまく課題の一つとして、認知症*1 とその介護があります。次のマンガや高校生の声から、高齢者や介護者の尊厳について、「対等な関係性」とはどういうことか考えてみましょう。



(出典:『マンガ 認知症』ニコ・ニコルソン、佐藤眞一(筑摩書房))
 (*1 次ページ「キーワード」参照)

◎ 認知症の高齢者に接した高校生の声

- 食事をしたばかりなのに「ご飯用意してください」とおっしゃったり、「私の部屋はどこですか」「家に帰ります！」とおっしゃる利用者さんがいらっしゃる時は、どうすれば落ち着いて頂けるか悩みましたが、自分の体温が高いのを利用して手を握ってみると「手、温かいねえ～」いつも困ったような顔をしていた利用者さんが笑顔を浮かべていて少し落ち着いていただくことができました。笑顔が少ない利用者さんに笑っていただけて自分もとても嬉しい気持ちになりました。
- 生い立ちの話を聞いた時に、何度も同じエピソードを繰り返され、ほとんど進まず、どう相づちを打っていいかわからなくなってしまった。認知症の方が何度も同じ話をする時は、毎回初めて聞いたかのように聞いた方がよいらしい。その方にとっては初めて話していることだからだ。でも私は途中から飽きてきており、そのような反応はできなかった。

あなたなら、高齢者にどのような声かけをしますか？



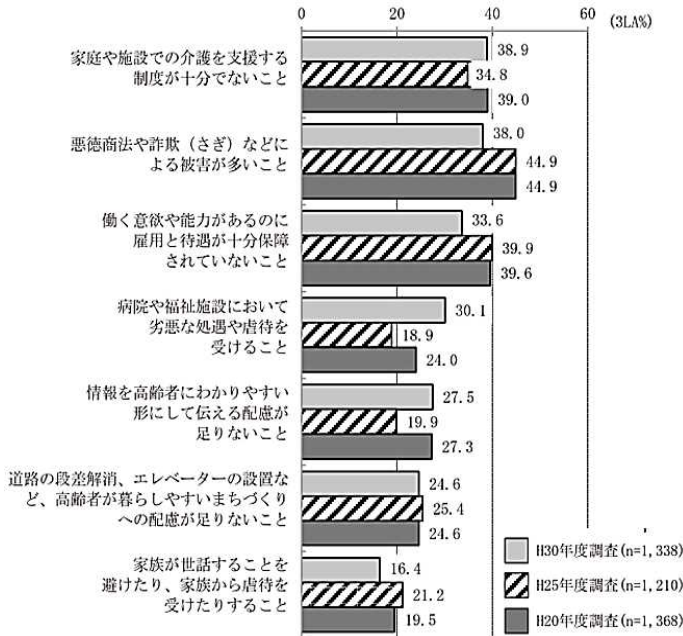
(認知症カフェでの高校生による交流)

※認知症カフェは、認知症の人やその家族、医療や介護の専門職、地域の人など、誰もが気軽に参加して、情報交換したり、相談したりできる「集いの場」です。

○ 高齢者に関する人権課題

下のグラフや自分自身の体験から、高齢者への人権侵害や高齢者の感じている困りごとを挙げてみましょう。

「高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思われることは何ですか。」



(出典:「平成30年度人権に関する県民意識調査」(公財)兵庫県人権啓発協会)

○ 高齢者の生きがいと活躍

(1) ねんりんピック(全国健康福祉祭の愛称)

スポーツや文化種目の交流大会をはじめ、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図っています。

(2) 社会・経済の活性化の担い手

企業	ダイバーシティ経営推進のための、豊富な経験や知識・技能を持つ人材
地域社会	地域ボランティアや子育て支援、祭等伝統行事の伝承、地域社会の担い手 など

○ キーワード

◆ 認知症

さまざまな原因で脳の神経細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために記憶や判断力等に障害が起こり、日常生活に支障が出ている状態(およそ6か月以上継続)をいう。

令和7(2025)年には認知症の高齢者は約700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人に達する見込みで、誰もががかわる可能性のある身近なことである。

問題の一つに認知症高齢者の徘徊・行方不明があり、認知症による令和元(2019)年の行方不明者数は17,479人にのぼる(警察庁)。

◆ 高齢者に対する虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法、平成18(2006)年)

介護保険制度の普及が進む一方、高齢者に対する虐待、介護や世話の放棄・放任等社会問題となったため、高齢者の権利や利益を守るために施行された。



◆ 認知症サポーター・オレンジリング

認知症サポーターとは認知症に関する知識と理解があり、認知症の人や家族を手伝い、身近なところから支援する人のこと。高校生も養成講座を受講できる。オレンジリングはサポーターの証である。

○ 関係機関・施設等

◆ (公財)兵庫県いきがい創造協会

生涯学習や高齢者大学、シニア世代のボランティアなどの案内などを行っている。

◆ 地域包括支援センター

各地域に設置されている介護や福祉など高齢者支援のための「総合相談窓口」。介護保険等の申請や介護サービス等について相談や助言を行っている。



○ 参考資料

◆ 高齢社会白書(内閣府)

◆ 人権啓発ビデオ「虐待防止シリーズ(高齢者虐待)」(法務省)



考えてみよう

Q1. 人生100年時代における、高齢者の生きがいや期待される役割を調べ、「豊かな人生」とは何か考えてみよう。

Q2. 高齢者が安心して地域で暮らすために、これからどのような取組ができるか考えてみよう。